



思い出の自転車道路…

私は地元が大野です。大野小学校から、池野・柚木の方に自転車道路という道があります。昔、柚木などにあった炭鉱から採掘した石炭を運んでいた炭鉱線路の跡です。

中学3年生の3月。公立高校の合格発表の日。近くの友人と一緒にこの道を歩いて、高校に合格発表を見に行きました。今はネットなどで合否の確認ができますが、当時は、直接見に行くしかなかったのです。友達のS君と待ち合わせをして、自転車道路を歩き、ドキドキしながら、「大丈夫かな…」「落ちていたらどうしよう…」など話をして行きました。

いよいよ高校に到着して、合格者名が張り出してある看板の所を見ました。当時は受験番号ではなく、名前が掲示してあったのです。400名近くある名前から自分の名前を見つけ出すのは一苦労でしたが、見つけたときの喜びは、何とも言えませんでした。友達のS君も合格。二人でほっとしました。その時ふと、S君が「Tはどがんやったかな…」とつぶやきました。中学時代、私とS君とT君は気が合って、よく一緒に遊んだり、勉強をしたりしたのでした。私は自分の事で精一杯。そこで、はっとして、「よし、探そう!」と言って、S君と私の二人で手分けしてT君の名前を探すことにしたのです。当時は、総合選抜と言って、西高・北高・南高のどこに合格するかわからなかったのです。地元の西高の合格者一覧、何度見つけてもT君の名前はありませぬ。北高の所も、南高の所も何度も探したのですが、見つけることができませんでした。

「仕方がないか…」と思いながら、S君と私の二人で自転車道路を歩いて家に帰りました。私は、高校に行ってから部活は何に入るか、勉強は大丈夫かなど、自分の事を考えていました。その時、ふと横を見たら、S君が、「一緒に西校に行こうって頑張ったのに…」とつぶやきながら、涙をぼろぼろ流していました。

その時、私は、自分の事しか考えていなかった浅はかな自分のことが、恥ずかしくてたまらなくなりました。「そうだ。Tとは一緒に勉強も頑張った。一緒に部活も頑張った。たくさんの時間を一緒に過ごした。それなのに、高校では別々の道を進むのだ。もう同じような時間を過ごすことはできないのだ。」という思いがわき上がり、悲しくなって私も涙があふれてきました。約40年前、私とS君と涙をぼろぼろ流しながらこの自転車道路を歩いたのでした。

このT君とは、ここから約10年後に、偶然、再会しました。私立の高校に進学し、ものすごい努力をしたのでしょう。社会人としてとても活躍していました。「よお、木下!」と声をかけてくれたT君は、中学時代と同じように明るく元気で優しかったです。思わず、握手をして抱き合いました。

今でこそ当たり前に思えますが、高校で人生が決まるわけではないことや、友達を思う気持ちの大切さを教えてくれた経験です。

